

C. そ の 他

I 発表論文抄録

1. 冬期に経験した呼吸器症状を伴った 乳幼児下痢症のウイルス学的検査

梅津 幸司	白地 良一	千葉 良*
望月 恵子*	久手 監修*	川村 和久*
中江 信義*	小松 茂夫**	州崎 健**
宮城 辰雄**	堀川 雅活**	寺沢 政彦**
新津 泰孝**		

Stool 中にロタウイルスの証明された29名の幼児のうち

28% (8名) に呼吸器ウイルスの同時感染のあることが証明された。 (小児科 24, 1231, 1982)

* 仙台赤十字病院小児科
** 東北大抗酸菌病研究所小児科

2. RPHA法を用いたヒトロタウイルスの 中和抗体測定法

梅津 幸司	白地 良一	千葉 良*
海老名卓三郎*	佐藤 昭夫**	石田名香雄**

ウイルスの増殖が確認されながら中和試験の出来なかつた

ロタウイルスの中和試験をRPHA法を用いて確立した。 (医学のあゆみ 127, 1071, 1983)

* 仙台赤十字病院小児科
** 東北大医学部細菌学教室

3. 非A・非B型肝炎関連抗原

白地 良一	舘田 朗*	桜井富久子*
菊地 金男*		

A型肝炎ウイルスまたはB型肝炎ウイルスによらない
肝炎の起因ウイルスの検査法を検討した。EIA法では

急性輸血後肝炎では約60%の頻度でウイルス関連抗原が
検出された。しかし、特異性については更に検討を要す
る。 (免疫と血液 5, 405~412, 1983)

* 国立仙台病院外科

II 学会発表

II 学 会 発 表

1. B群レンサ球菌のインフルエンザレセプター
助野典義 山本仁 新妻沢夫 (微生物部)
第37回日本細菌学会東北支部総会 1983年9月9～10日(福島市)
2. 食品中の残留有機塩素系農薬の動向
小野研一 佐藤信俊 鈴木滋 牛沢勇 (理化学部)
第20回全国衛生化学技術協議会年会 1983年9月29～30日(宇都宮市)
3. 食品中の臭素酸カリウムのイオンクロマトグラフによる分析法について
山田わか 菊地秀明 牛沢勇 百川滉*
(理化学部 *現宮城県仙南保健所)
第20回全国衛生化学技術協議会年会 1983年9月29～30日(宇都宮市)
4. 水道におけるカビ臭の測定方法
木戸一博 千葉規 郡山力* (環境衛生部 *現(財)宮城県公衆衛生協会)
第20回全国衛生化学技術協議会年会 1983年9月29～30日(宇都宮市)
5. ガスクロマトグラフィーによるフェノール及びフェノール類の定量法
菅原隆一 木戸一博 郡山力* (環境衛生部 *現(財)宮城県公衆衛生協会)
第20回全国衛生化学技術協議会年会 1983年9月29日～30日(宇都宮市)
6. B群レンサ球菌より分離精製したインフルエンザレセプターの性状
助野典義 海老名卓三郎* 石田名香雄* (微生物部 *東北大医学部細菌学教室)
第31回日本ウイルス学会総会 1983年10月5～7日(大阪市)
7. ダイオキシンの分析法の検討
鈴木滋 佐藤信俊 高槻圭吾 菊地秀明
牛沢勇 (理化学部)
第46回食品衛生学会学術講演会 1983年10月13～14日(山形市)
8. 水田用農薬の魚介類中残留
佐藤信俊 鈴木滋 牛沢勇 百川滉*
(理化学部 *現宮城県仙南保健所)
第22回日本薬学会東北支部大会 1983年10月22～23日(盛岡市)
9. スパイクタイヤによる道路粉じんの実態
菊地格 (大気部)
第9回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 1983年10月25～26日(秋田市)
10. 活性汚での性状と浄化能との関係について
斎藤善則 鎌田正弘 木村茂 佐々木俊行*
田中和郎 柳茂** 佐藤秀夫 (水質部 *現宮城県宮黒保健所 **現宮城県大崎保健所)
第9回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 1983年10月25～26日(秋田市)
11. 宮城県柴田町船岡地区におけるNO₂濃度分布実態調査
北村洋子 氏家愛子 (大気部)
第24回大気汚染学会 1983年11月16～18日(四日市市)

12. 道路粉じん中アスファルト含有量の推定について

安倍 睦夫* 加藤 謙一 氏家 愛子 北村 洋子

森 泰明** 狩野 敏郎*** (大気部 *現宮城県大崎保健所 **現宮城県原子力安全対策室
***現宮城県薬務課)

第10回環境保全・公害防止研究発表会 1983年12月7～8日 (東京都)

13. 感染症と学校欠席

山本 仁 小室 健一* 佐藤 春雄 (情報管理部 *現宮城県環境調整課)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

14. 県内における恙虫病の血清学的検索

秋山 和夫 山本 仁 新妻 沢夫 (微生物部)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

15. 食品中の有機リン系農薬の残留 ―日常食品中の汚染物摂取量調査より―

百川 和子 菊地 秀明 鈴木 滋 佐藤 信俊

牛沢 勇 (理化学部)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

16. 日常食品からの無機物質の一日摂取量

加茂 えり子* 百川 和子 菊地 秀明 山田 わか

佐藤 信俊 牛沢 勇 (理化学部 *現宮城県仙塩流域下水道事務所)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

17. 水道水中の非イオン界面活性剤の分析

秋野 正造* 郡山 力** (環境衛生部 *現宮城県気仙沼保健所 **現財宮城県公衆衛生協会)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

18. 宮城県におけるガン死亡率と発生要因としての環境要因との関係に関する統計的解析 (第1報)

清野 茂 千葉 規 郡山 力* (環境衛生部 *現財宮城県公衆衛生協会)

第20回宮城県公衆衛生学会学術総会 1984年2月16日 (仙台市)

19. 人造湖 (漆沢ダム) の水質汚濁調査について (中間報告)

田中和郎 鎌田 正弘 高橋 正弘* 佐々木 俊行**

佐藤 秀夫 大庭 和彦*** 高橋 紀世子** 宮崎 栄一郎****

佐藤 春夫 (水質部 *現宮城県企業局大崎広域水道事務所 **現宮城県宮黒保健所 ***現宮城県公害
規制課 ****現宮城県環境調整課)

北上川・阿武隈川水系水質汚濁対策連絡協議会第3回検討会 1984年2月23日 (仙台市)

Ⅲ 業績研究会

第 2 回 宮城県保健環境センター業績研究会

と き 昭和59年2月24日(金) 9:00～16:20

ところ 宮城県保健環境センター大会議室

〔午 前 の 部〕 9時30分

座 長 高 橋 克 寿 (公害規制課)

1. 飲料水中の硝酸性窒素の定量について -紫外線吸光度法の検討-
宮黒保健所 ◎高橋紀世子 新垣 康秀 加藤 尚子 我孫子正敏
2. 硫酸イオンのオートアナライザーによる分析方法の検討
保健環境センター水質部 ◎大内 習一 柳 茂 木村 茂 吾妻 正道 船木 宏
佐藤 秀夫
3. フレームレス原子吸光法による水中セレンの測定法に関する研究(第1報 水道水中セレンの測定法)
保健環境センター環境衛生部 ◎菅原 隆一 千葉 規 郡山 力
4. A G Pによる漆沢ダムの富栄養化の検討
保健環境センター水質部 ◎佐々木久雄 田中 和郎 伊藤 孝一 斉藤 善則 鎌田 正弘
佐藤 秀夫

座 長 清 水 正 夫 (環境調整課)

5. 排水処理施設の維持管理に関する調査研究
-食品工場排水の季節的変化と浄化率との関係について-
保健環境センター水質部 ◎斉藤 善則 田中 和郎 佐々木久雄 鎌田 正弘 伊藤 孝一
佐藤 秀夫
6. B O D測定における種々の問題点
宮黒保健所 ◎新垣 康秀 高橋紀世子 加藤 尚子 我孫子正敏
7. 電極式溶存酸素濃度計による測定の基礎的検討(第1報)
保健環境センター環境衛生部 ◎平 富貴 菅原 隆一 千葉 規 郡山 力

座 長 仲 田 忠 二 (公害規制課)

8. 燃料転換施設調査結果について
保健環境センター大気部 ◎加藤 謙一 松浦 勉 氏家 愛子 北村 洋子 菊地 格
狩野 敏郎
9. 実験室内空気中のハロカーボンについて
保健環境センター大気部 ◎菊地 格 北村 洋子 氏家 愛子 狩野 敏郎
10. 塩釜地区におけるNO₂分布調査結果について
保健環境センター大気部 ◎北村 洋子 松浦 勉 氏家 愛子 加藤 謙一 菊地 格
狩野 敏郎
11. 宮城県内のオキシダント濃度について
保健環境センター大気物 ◎加藤 憲治 佐々木末男 四十物良一 狩野 敏郎

座 長 森 泰 明 (原子力安全対策室)

12. 環境ガンマ線のダイナミックスペクトル
原子力センター ◎菊地 秀夫 中村 栄一 渡辺 丈夫 滝島 哲夫
13. T L Dを用いた環境ガンマ線のモニタリング方法に関する幾つかの検討
原子力センター ◎石川 陽一 渡辺 丈夫 滝島 哲夫

〔午 後 の 部〕 13 時

座 長 早 坂 国 夫 (公害規制課)

14. クラスタ分析による騒音の地点分類

保健環境センター情報管理部 ◎加賀谷秀樹 小室 健一 高橋 宣明 佐藤 春雄
保健環境センター特殊公害部 菊地 英男

15. 低騒音型ボーイング767の航空機騒音について

保健環境センター特殊公害部 ◎平間 一男 市川 敬典 菊地 英男

座 長 高 梨 忠 男 (公害規制課)

16. 昭和58年度環境測定分析統一精度管理の結果について -全国値との比較-

保健環境センター環境衛生部 ◎千葉 規 平 富貴 菅原 隆一 郡山 力
保健環境センター水質部 船木 宏

17. 本県におけるガン死亡率と発生要因としての環境要因に関する統計的解析 (第1報)

保健環境センター環境衛生部 ◎清野 茂 庄司 晃子 千葉 規 郡山 力
大崎保健所 一ノ渡義巳

座 長 佐々木 智 司 (環境衛生課)

18. ダイオキシンに関する研究 (I)

- GC/MS/SIMを用いた微量分析法と魚介類中の残留について -

保健環境センター理化学部 ◎鈴木 滋 佐藤 信俊 高槻 圭悟 牛沢 勇

19. ダイオキシンに関する研究 (II)

- 合成と2・3の生物活性について -

保健環境センター理化学部 ◎牛沢 勇 佐藤 信俊 鈴木 滋 菊地 秀明 高槻 圭悟
東北大学薬学部 片桐 信弥

20. ニトロ置換多環芳香族化合物の還元による総量の定量

保健環境センター理化学部 ◎高槻 圭悟 鈴木 滋 佐藤 信俊 牛沢 勇

座 長 庄 子 卓 郎 (環境衛生課)

21. クロピドールの鶏肉中残留 -相間移動触媒によるメチル化法-

保健環境センター理化学部 ◎佐藤 信俊 加茂えり子 高槻 圭悟 牛沢 勇
仙南保健所 百川 澁

22. 貝毒に関する調査研究 -マヒ性貝毒の推移と成分-

保健環境センター理化学部 ◎菊地 秀明 中根ミワ子 牛沢 勇
気仙沼保健所 小林 孜
保健環境センター環境衛生部 菅原 隆一

23. ニジマス中のスルフェモノメキシンの分析結果について

仙南保健所 ◎佐藤真貴子 百川 澁 村上 仁 高橋 成人 菅原 優子 茨木 隆雄
浜名 徹 大江 浩 大岩 隆

24. と畜場で発見された豚抗酸菌症様病変からの菌分離について

仙北食肉衛生検査所 ◎石川 政彦 千葉 文明 宍戸 義典 只野 尚盛 遠藤 幸男
牛沢 養吉

座長 飯塚 武一 (公衆衛生課)

25. ロタウイルスと呼吸器感染症
保健環境センター微生物部 ◎梅津 幸司 白地 良一
仙台日赤病院 千葉 良
東北大学抗研小児科 新津 泰孝
26. ヒト血清パルボウイルス - 検査法の検討 -
保健環境センター微生物部 ◎白石 広行 新妻 沢夫
27. トキンプラズマ抗体調査について
保健環境センター微生物部 ◎佐久間 隆 遠藤 好喜 新妻 沢夫
28. 先天性代謝異常マス・スクリーニング58年度の現況
保健環境センター微生物部 ◎沖村 容子 清野 陽子 新妻 沢夫

座長 西郡 光昭 (保健環境部)

29. 宮城県で確認したA型肝炎の流行
保健環境センター微生物部 ◎白地 良一 梅津 幸司 秋山 和夫 新妻 沢夫
総合衛生学院 白取 剛彦
30. 酵素抗体法を用いた百日咳の血清疫学
保健環境センター微生物部 ◎秋山 和夫 梅津 幸司 新妻 沢夫
保健環境センター情報管理部 山本 仁
仙台日赤病院 千葉 良
永井小児科 永井 幸夫
31. B群レンサ球菌の菌体より精製したインフルエンザウイルス不活化物質の性状
保健環境センター微生物部 ◎助野 典義 山本 仁 新妻 沢夫
保健環境センター情報管理部 山本 仁

IV 談 話 会

談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピック、現在の試験、研究内容等の話題を提供していただき討論していく会です。

原則として、毎月第3水曜日午後1時15分から所内会議室において開催します。

- | | | | |
|--------------------------------|----------|----|----|
| 第 30 回 (昭和58年 4月28日) | | | |
| ○人体病害動物入門(その2) -毒ヘビの話- | (情報管理部) | 山本 | 仁 |
| ○薬物代謝 P-450 について | (理化学部) | 菊地 | 秀明 |
| 第 31 回 (昭和58年 5月26日) | | | |
| ○遅発生ウイルス感染症 | (微生物部) | 梅津 | 幸司 |
| ○ダイオキシンについて | (理化学部) | 鈴木 | 滋 |
| ○ダイオキシンの合成 | (理化学部) | 牛沢 | 勇 |
| 第 32 回 (昭和58年 6月20日) | | | |
| ○発癌における Initiation と Promotion | (理化学部) | 佐藤 | 信俊 |
| ○A型肝炎について | (微生物部) | 白地 | 良一 |
| 第 33 回 (昭和58年 7月21日) | | | |
| ○海産物の毒 -最近の知見- | (理化学部) | 高槻 | 圭悟 |
| ○恙虫病について | (微生物部) | 遠藤 | 好喜 |
| 第 34 回 (昭和58年 8月18日) | | | |
| ○湖水の流動特性 | (東北大工学部) | 後藤 | 光亀 |
| 第 35 回 (昭和58年 9月21日) | | | |
| ○映画「DNAの化学と物理」「DNA組換え」 | | | |
| 第 36 回 (昭和58年10月21日) | | | |
| ○BODの精度管理におけるDOメーターの精度 | (環境衛生部) | 菅原 | 隆一 |
| ○細菌の毒素について | (微生物部) | 助野 | 典義 |
| 第 37 回 (昭和58年11月25日) | | | |
| ○スパイクタイヤ問題について | (公害規制課) | 仲田 | 忠二 |
| 第 38 回 (昭和58年12月13日) | | | |
| ○生活排水に対する各省庁の対策について | (環境衛生部) | 千葉 | 規 |
| ○生活排水システムの今後の方向 | (水質部) | 斉藤 | 善則 |
| 第 39 回 (昭和58年12月23日) | | | |
| ○米国NIH留学記 -概要と成果- | (微生物部) | 白石 | 広行 |
| 第 40 回 (昭和59年 1月19日) | | | |
| ○残留農薬問題の推移 | (副 所 長) | 堺 | 敬一 |
| 第 41 回 (昭和59年 2月 2日) | | | |
| ○水道プランクトン | (環境衛生部) | 郡山 | 力 |
| 第 42 回 (昭和59年 2月15日) | | | |
| ○私の見た西域 -文化と生活- | (情報管理部) | 田村 | 一枝 |
| 第 43 回 (昭和59年 3月15日) | | | |
| ○Pneumocystis carinii 肝炎 | (微生物部) | 湯田 | 和郎 |
| ○悪臭の感応試験法について | (特殊公害部) | 八木 | 純 |

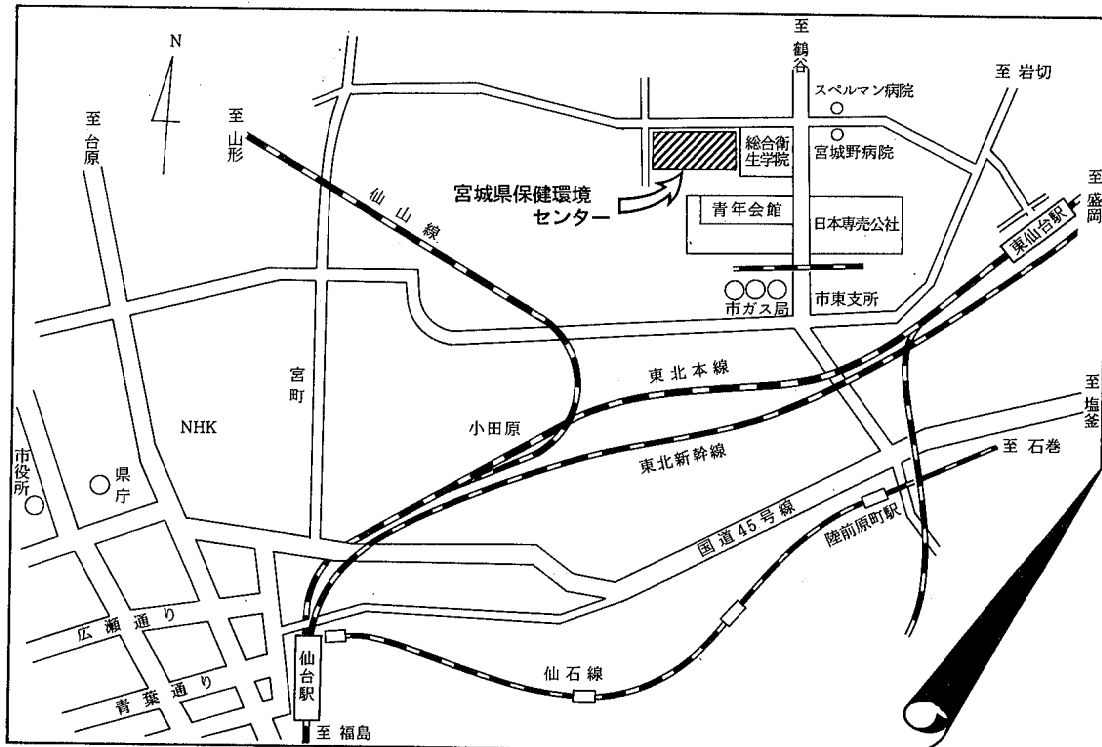
宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。
2. (原稿の執筆規定)
 - 1) 原稿はB5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。
学術用語は学会の慣例に従う。
 - 2) 原稿は表題, 著者名, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。
資料も原則として, この順序に従って記載する。
 - 3) 著者の他機関の人を含む場合は, *印を付して脚注に記載する。
 - 4) 参考文献は, 最少限にとどめ, 本文中の引用箇所(1), 2)~4)のように肩番号を付して示す。
(記載方法)
雑 誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西歴年)
単 行 本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発行所(西歴年)
 - 5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に), それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本文のあとにまとめて綴る。
図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。
図はそのまま製版できるようにA4判の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インクで丁寧に書く。
 - 6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受付ける。
3. (原稿の提出) 原稿は所定の期日までに, 各部の編集委員に提出する。
執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。
原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

編 集 委 員

佐藤秀夫 (委員長)	田中和郎
佐藤春雄 (副委員長)	加藤謙一
星孝樹	佐藤真貴子
平富貴	佐藤博明
秋山和夫	内田隆夫

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター年報 第2号
(昭和58年度)

印刷 昭和59年10月31日

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市幸町四丁目7番2号
電話 0222-57-7181(代)
